

らよいか、それぞれ簡単に各コースのこういった方面が開けるといった楽しい夢をお話し頂きたいと思っています。

式部 総合科学部は全国から注目されている学部で、それなりに卒業生の売れゆきもよいのですが、本当の活躍という、まだまだこれからということになります。総合的な訓練の成果を生かして、国内、国外の各方面で活躍する人がどしどし出てほしい。その基礎は充分できていると思います。教官陣容もとのっているわけですから、研究面での成果も大いに期待されてよい。

鈴木 都市生活というものは、大人にとってはかなり忙しいが、それは学生諸君にとっても同様だと思います。東広島市はその意味では、いわば、学園のキャンパスを存分に活用出来る状況ができて、むしろプラスの面が発揮できると思います。研究者と、育とうとする者とのほだの接触が必要なんです、それには教官の宿舎も完備してもらい、夜も学生諸君と接触できるようなものに創ってほしいと思えますね。

式部 東広島市への移転について言えば、ある程度新しい学園生活が期待出来ると思います。「生活の場としての大学」というものを私は考えるのですが、大学とは決して研究室、教室、実験室のみで成り立つものではない。さまざまな人間の活動が積極的に展開される場であってほしい。

鈴木 ことし入って来る学生は、移転の準備でザワザワしておちつかないということがあるかと思いますが、開拓という事を考えると、初期の人がかえって一番よくのびるものなんですね。

倉石 最初にその場所に行った人間ということになりますと、その場所には前例がなく、どんなことでも出来るという可能性があるわけです。後になって来た人は前例があり、その前例に従ってゆけばよいと考えて、あまり物事を考えないことが多いのです。人間は考えるか考えないかで非常に大きな差があるものです。例えば、東広島市に移るとしますと、東広島市に特有のいろいろなものがあり、街ぐるみでの特有な楽しみがあると思います。都会ではあじわえない地域ぐるみの集りが出来るわけです。そうした問題をどのように創って行くかを考えながら新しく入って来る人達に自分達の未来の学生生活を創造をして行ってほしいと思います。

式部 ある程度生活パターンを変える必要があるでしょう。東広島市に居住して、夕食後にセミナーが

開かれるようになると楽しいものになる。

重中 学生生活の面でも非常にやり易くなると思います。学園都市という限られた生活圏で過ごすのですから、セミナーやレクリエーションを通じて、学生と教職員との間の意思の疎通もはかれるのではないかと思います。

総合科学部を一言で言うと

司会 そろそろ時間もまいりましたので、最後に、総合科学部を一言で言うかどうか、先生方それぞれの御意見なり感想をお聞かせ頂ければと思います。

鈴木 今まで皆さんが一生懸命努力してこられたわけですが、総体的に言えば、いささか疲れが出たという時期もあったかと思います。そのために若干の手ぬかりもあったかもしれませんが、研究者である我々はもっと有機的に話し合うことが必要だと思います。そして、学生と一緒に力を合せて、気迫を持った学部にしていきたいと思えます。

倉石 私も学生さん一人一人がまだ自分で完全に理解していないのではないかと思います。例えば、物理学なら物理学、化学なら化学だけを勉強している学生さんと違って、色々勉強しているために、将来になってみると色々な新しい問題に順応できる性質を持っているわけです。十年もたってみますと自分達で自分のすぐれた性質を発見するものだと思います。言いかえれば、つぶしのきくような人間になれるような勉強の仕方をやっているのだということですよ。

岡本 学問の仕方によっては非常に将来希望をもてる学部であり、従って学生は伸ばそうとすればいくらでも学問的に伸ばし得る夢のある学部ですが、反面なまけようと思えばいくらでもなまけても卒業できる学部です。

坂本 つぶしがきくという面でも、例えばデータが出ていますが、毎年数名の学生が英語の先生になっています。外国語諸講座としましては、総合科学部の創立の理念に沿うような語学に強い学生をつくりたいと思えます。

鈴木 今、実際語学の力はどうですか？

坂本 弱いです。

鈴木 LL教室などは、学生諸君もかなり活用しているように思いますが――。

坂本 そうです。聞く力・会話力はかなりうまくな

っていると思いますが、逆に読解力が弱くなっている気がします。

司会 一言というところで、まだご発言なさっていらっしゃらない先生方をお願いいたします。

志村 総合科学部の原点を忘れずに、あらゆる機会を捉えて、たえず、その可能性を追求することにつきますと思います。その意味では、もっと大胆にコースの枠を越えた共同研究の追求が努力されてもよいと思うし、東広島市への移転もそういう契機として活かすことが必要だと思う。

重中 最近の社会情勢を反映しているせいか、学生諸君が入学してから卒業するまでに、卒業後の就職のことを考えて自分の道を選んでいきます。すなわち、厳しい社会なので、これは当然のような気がします。もう少しおらかな気持ちで自分が学問をし研究をするのだという姿勢で、自分なりのものを何かつかんで欲しいと思います。情報行動科学コースの場合は、幸いにコンピューター関係での就職が良いようです。しかし、例えば最初に教員志望で入学してきた学生は、あくまでもその気持ちを持ち続けて欲しいと思います。

総合科学部独特の総合性のある教育や研究こそ、今後の学校教育に要求されることだと思うからです。とにかく、学生諸君が自分の目標に向かって自分なりのものを何かつかんで卒業して欲しいと、ただ、私はそれだけを願っています。



式部 総合科学部とはどういう意味をもった学部であるかということ、学生も教員もたえず考えて直していく、そのなかで、最初のところで言った人間性の立場に立った総合的な研究教育をすすめたいと思います。学生諸君も自信をもって自己訓練に努力していただきたい。

力をつけることです。

司会 本日は、本当にお忙しいところを貴重な時間を割いて頂き、非常に有効なアドバイスを重ねて頂きましてありがとうございました。

司会の不手際で、論じ足らぬ御不満も多々おありかと存じますが、新入生諸君が、この座談会の記事を読んで、しっかりとこの四年間を一貫させて、我が学部の特徴を生かして巣立ってくれる日を期待してこの座談会を終りたいと思います。

どうもありがとうございました。

1年間をふり返って

〈HGH総合科学部より愛をこめて〉 ～56年度生へ～

編 集 部

ようこそ！広島大学総合科学部へ。御入学本当におめでとうございます。さて、新入生諸君、皆さんは「総合科学部」をどんなイメージで受けとめているのでしょうか。先輩方に聞きましても、私たち自身で考えてみても、どうも確固たる解答は出て来ないようです。一般に、学部の学問内容が新鮮であることは魅力的である反面、とらえどころがないと感じられます。このたび『飛翔』では、総合科学部に一年間籍を置いたうえで、総合科学部をみつめ直そうと、55生を対象に下記のようなアンケートを行ないました。時間的な余裕がなかったことと、編

集部の計画不備のため、55生による座談会を聞くことができなかったことは残念ですが、このアンケートの結果と『飛翔』学生編集委員11名(2年・3年を含む)の意見が、皆さんがこれからの大学生活を送っていくうえで多少なりとも参考となれば、うれしいことと思います。

〈Q1〉 今一番関心のあることは何ですか？

- ・進路(2年次のコース決定・就職etc)
- ・クラブ活動
- ・後期テスト
- ・単位
- ・コンパ
- ・異性関係
- ・世界の動き
- ・自己の確立・哲学

- 旅行 ◦友人関係 ◦スポーツ ◦野球 ◦車
- 学部内のもっと多くの人と知り合いたい。
- 私は今、何を為すべきか? ◦医療問題
- 映画 ◦麻雀 ◦貯金 ◦運転免許 ◦英会話
- いつ童貞を捨てるかということ
- 自分の趣味のこと ◦SF&ミステリー
- アントニオ猪木はいつ世界プロレス界を統一できるか ◦希望コースの研究内容 ◦成人式
- 音楽 ◦受け直した共通一次 ◦下宿 ◦健康
- 僻地訪問 ◦春休みの計画

<Q2> あなたは次にあげる5つの問題について、どの程度満足していますか。(’81.1.12現在)

- ① 非常に満足している。
- ② 満足している。
- ③ 普通。
- ④ 不満。
- ⑤ やや不満

A) 自分の専攻したい学問分野が用意されていること。

入学直後 (80.5.22調査)	5%	27%	45%	17%	6%
	①	②	③	④	⑤
現在 (81.1.12調査)	3%	40%	35%	13%	9%
	①	②	③	④	⑤

B) 教育内容が総合的で幅広い人間形成が可能であること。

入学直後 (")	10%	18%	43%	20%	9%
	①	②	③	④	⑤
現在 (")	3%	23%	49%	19%	6%
	①	②	③	④	⑤

C) 学際領域など新鮮な内容を持つ学部であること。

入学直後 (")	10%	17%	43%	21%	9%
	①	②	③	④	⑤
現在 (")	6%	34%	37%	14%	9%
	①	②	③	④	⑤

D) 自分の希望する進路(就職・進学etc)に有利であること。

入学直後 (")	4%	15%	51%	15%	15%
	①	②	③	④	⑤
現在 (")	4%	11%	53%	20%	12%
	①	②	③	④	⑤

<Q3> コースの定員に上限が設けられていることについてはどう思いますか?

- 仕方がない ◦反対 ◦当然だ
- 別によいのではないか。
- やむを得ないが、多少の融通はきかせてほしい。
- 仕方がないが、もう少し学生の志向に対応した定員の枠を作ってほしい。
- 総科にはどうしてもそこという意志堅固な人間ばかりでないから、もしオーバーしたら、そういう人間からcutすべきだと思う。
- 学校側は全員が希望通りのコースへ行けるような準備を早く備えてほしい。
- 自分が行きたくないところにまわされたら大学での研究が随分味気ないものになると思うと、こわい。いやですネ!
- 成績の点数化によって決定するのは間違っていると思う。
- 特に何とも思わない。
- 文系は人数的に言って50人が限度だと思う。適当だと思う。理系は情報行動科学コースの定員増をはかるべきだ。
- ほぼ希望通りに進めるのでそんな不満はない。



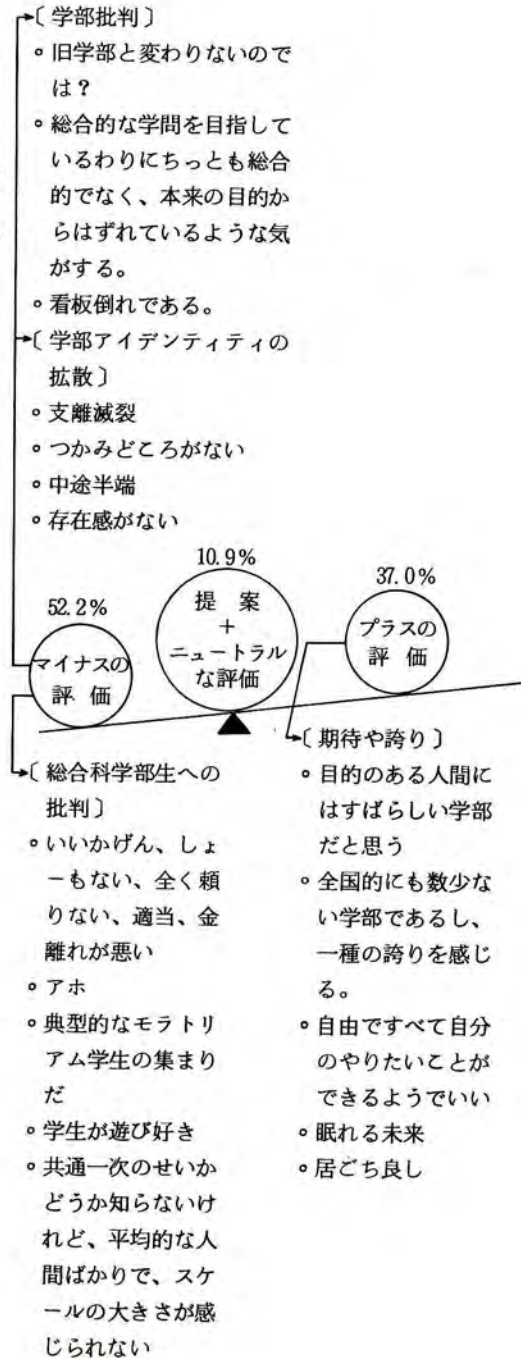
〈Q 4〉 入学後約九か月を経過して大学生活全般で何か感じるがありますか。



〈Q 5〉 今、自分は何をやりたいですか？また、何を一番やるべきだと思いますか？

- ・勉強 ・読書 ・クラブ ・スポーツ ・恋愛
- ・昼寝 ・人格形成 ・再受験 ・仕事 ・映画
- ・本物をつかみたい ・旅 ・健康づくり
- ・自主性のある生活体系の確立 ・理論と実践
- ・下宿を移りたい ・教養を身につける
- ・SKI ・免許を取るべきだ ・バイト
- ・SFする。ミステリーする。 ・合コン
- ・「創る」ことは大切だと思う ・人間形成
- ・教養を身につける ・サイクリング
- ・日本研究へ行って日本史を勉強すること。
- ・これこそ青春時代にしかできないこと。
- ・充実した日々を送ること。
- ・自分が今何を一番やりたいか見つけること。
- ・いろんな面で知識をつけ、それを活用できるようになること。
- ・やりたいと思ったことすべて。身につけても、つかなくても、役に立っても立たなくても。
- ・体力をつけたい。
- ・プロレスが市民権を得られるように努力したい。
- ・思想的基礎の充実 ・海外にゆくこと。
- ・人間関係を広げること。
- ・なまげぐせを治してもっと意欲的に行動すること。
- ・感激したい。高揚したい。

〈Q 6〉 あなたの総合科学部に対する学部感がありましたら……。



「アンケートの集計を終えて」

Q 1ではやはり多かったのは進路の問題と友人・異性との人間関係、クラブ活動などでした。Q 2では入学直後（55年5月22日調査）の結果とそれほどはっきりとした差異は現れませんでした。ただ、程度が「普通」の方へ偏ったということは、入学直後よりも更に総合科学部というものがわからなくなってきていることの現れと見ることもできるかもしれません。次に、新入生の皆さんが総合科学部にはいって最初に驚かれるであろうコースの定員の問題については賛成派・反対派・容認派とどこが多いということもなく意見はバラバラでした。（もちろん希望や要求はいろいろとありましたが。）Q 4では多少積極的な意見もありましたが、全般的に解答を見渡すと、暗いイメージで一種頹廢的な感じました。やはり怠惰になったとか、生活が乱れるとかいう答えが多かったようです。Q 5では、Q 4の裏返し、勉強・読書・クラブなど積極的に臨んでゆきたいし、そうすべきだとみんな考えているようです。最後にQ 6で、55生の総合科学部観について書いてもらいました。アンケートを実施した時点で約9カ月間総合科学部の中で暮らした私たちですが、「よくわからない。」「とらえどころがない。」「という意見が多かったようです。また、「バラバラ」とか、「団結が強い。」「とか、人によってまったく正反対の意見が出てきたのは面白いことでした。さて、アンケート結果を私だけで眺めてみても、役に立ちそうなことも書けそうにありませんので、次章では、『飛翔』の学生編集部内でこのアンケートの結果について話し合ったことをもとに書いてゆきたいと思います。

「学生編集部座談会を終えて」

1月19日(月)。前記のアンケートをもとにして55生で座談会を開こうということになっていたのですが、編集部の手落ちで、そこまで持ってゆくことができませんでした。そこで、『飛翔』編集委員の3年生1名、2年生2名、1年生8名の声を聞きながら感じたことを書いてゆこうと思います。座談会って言うとき堅苦しく感じるかもしれないけれど、気心の知れた者同志、結構楽しい雰囲気でお話ができたのではないかと思います。

Q 1での悩みと言えば、進路のこと・人間関係・クラブ活動・哲学などでしょうか。進路についてはQ 3で触れることにします。それから、哲学という話になると荷が重すぎますので、ここでは人間関係

とクラブ活動のことについて考えてみました。

・研究室

一年生の間、学部内での人間関係というと、学部内サークルなどもあるけれど、やはり大きなウエイトを占めるのは学生研究室の存在でしょう。この研究室、入学当初は休憩時間に行くあてもない連中が集って来て、お互いに自己紹介などをしていううちに次第に友人の輪が広がってゆくという場であったのですが、研究室へは行ってゆく時期を逸しますと、もうそのメンバーの中へは行ってゆくことができなくなってしまいう人もあらわれます。研究室のメンバーにはいらぬからと言って、どうこう言うわけではありませんが、この隔絶が2年・3年になっても尾を引き、「研究室内メンバー」と「研究室外の人々」との間に大きなギャップが生じてしまうことや、大学祭などで1年生がまとまろうとする時にも、結局は「研究室内メンバー」中心になってしまうことなどを考えると、研究室の「たまり場」的存在ということに関して考えなおしてみる必要がありそうです。ここでひとつ言えることは、現在の研究室には指向性がない（あくまでも55生の話ですが）ということでしょう。これがクラブ活動であれば構成員の目的意識などが同一方向を向いていて、しかもその取り組み方は積極的です。56生の皆さんは、研究室を単なる「たまり場」としてではなく、もっと発展的に使える「場」にしてみたいかでしょうか。一例として、遅れて来た者も参加できる「勉強会」などでもないと、同じ志向の友人で違った意味の、より積極的なつながりが持てるのではないのでしょうか。

・友人関係

一般的に、友人関係のあるべき姿は理想的、道徳的に言えば「お互いの知識・考え方をぶつけあうことによって、お互いを精神的に向上させる。」ということでしょうか。けれども、私たちが友人を求めるのは、そんな「目的」のためでなく、自分に疑問を持っているからかもしれません。寂しいからなのかもしれません。だから「寂しくなければそれでいい。」「多少なりとも自分の心の中のものやもやが、なくなればそれでいい。」と自分で納得できればそれでもいいのではないのでしょうか。「Give and Take」の関係なんか気にせず「Take and Take」の関係でも十分なのではないのでしょうか。

・Q 2の間Aについて

単なる「満足」や「普通」という好意的解答が大半を占めるということは、案外自分の専攻分野のこ